

1972

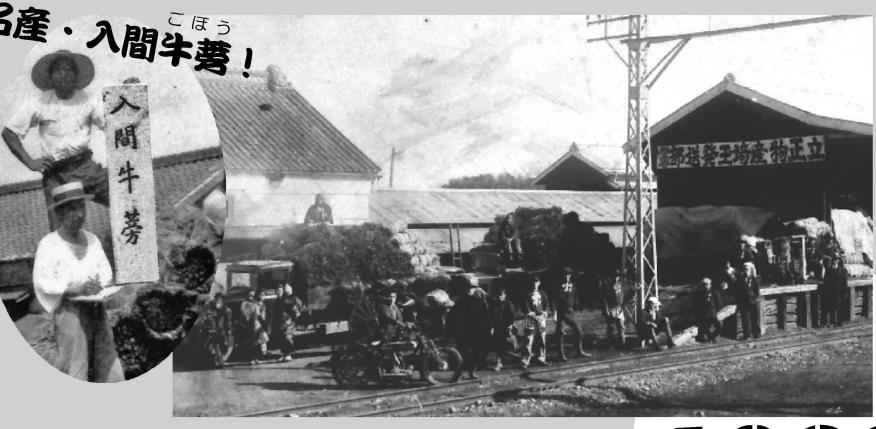
(昭和47年)
この年、富士見町が
富士見市になりました。



1970

(昭和45年)

東口駅前。
まだ西口ではなく、
西地域の住民は
線路を越えて
利用していました。



1938

(昭和13年)

ゴボウなどの農作物を出荷し、
関西方面まで届けられたそうです。

1945

(昭和20年)
終戦

1956

(昭和31年)

鶴瀬村、南畠村、
水谷村が合併し
富士見村が誕生



1964

(昭和39年)

駅南側の踏切。
画面奥が西地域です。

この年は東京オリンピックがあり、
富士見村も富士見町になりました。



1960年代の西口の畑
(撮影 萩原編集委員)

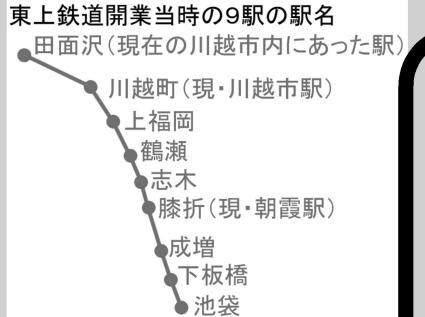
1980

(昭和55年)

待望の西口がオープン。
(画像は昭和55年2月25日号
広報ふじみ掲載記事)

富士見市のはずれに位置し、
人口も少なかった鶴瀬西地域。

鶴瀬駅とその周辺写真から、
東上鉄道の開業及び西口開設により、
大きく発展を遂げたことが
読み取れると思います。
今後は、人が住む街として、
更なる住みよい街となればと
願う次第です。



1914

(大正3年)
5月1日 東上鉄道
(現在の東武東上線) が
田面沢～池袋間で開通し
鶴瀬駅開業

むかしむかしの 雀瀬とその周辺 駅

鶴瀬駅は1914年5月1日に誕生しました。僕は1934年生まれですが、西地域は川越街道を通る車の砂煙が見える一面の煙でした。木枯らしで煙の表土が飛ばされ、土器の破片が現れることがありました。この地域には長い人々の歴史があります。今回は鶴瀬駅の歴史の一部を紹介します。（萩原）

1918

(大正7年)
鶴瀬駅設置に積極的だった人たちが
記念に撮影したといわれる写真です。
蒸気機関車、着物姿の人々、
ホームの「せるつ」と逆から書かれた
駅名表示板などが
時代を感じさせます。